

平成 29 年度 北杜市健康づくり推進協議会委員委嘱式

及び第 1 回北杜市健康づくり推進協議会会議録

1. 審議会会議の名称：第 1 回北杜市健康づくり推進協議会
2. 開催日時：平成 29 年 7 月 5 日(水) 午後 2 時～午後 4 時 10 分
3. 開催場所：北杜市役所 西館会議室
4. 公開・非公開の別：公開
5. 傍聴人の人数：0 人
6. 議事
 - (1) 健康づくり推進協議会の役割について
 - (2) 第 2 次北杜市健康増進計画及び北杜市民の様子について
 - (3) 平成 29 年度北杜市保健事業計画、北杜市母子保健事業・子育て支援施策
7. 出席者 委員 12 名
吉田和徳 古屋好美(代理 柴田) 高橋達郎 高見澤知恵 浅川敬子 櫻井ひろみ
小林忠雄 横森勝 市ノ瀬真 原かつみ 小林隆二 浅川隆

事務局 17 名
市民部長 篠原直樹 福祉部長 織田光一
健康増進課 浅川辰江 中田はるみ 長田恵美子 興水秀子 藤原友美 中嶋 真希
介護支援課 三井ひろみ 廣瀬佐智子 奥山史帆
ほくとっこ元気課 伴野法子 浅川享子 津金胤寛 増山さゆり 佐藤悦子
子育て支援課 中田治人
8. 欠席者 2 名
功刀孝次郎 坂本正輝
9. 署名録委員
高橋達郎 高見澤知恵

—午後 2 時開会—

10. 開会あいさつ

11. 委嘱状交付

各委員に委嘱状の交付を行う。(任期は平成29年4月1日から平成30年3月31日)

12. 市長あいさつ

小さい子どもから幾つになっても健康の大切さは、身をもって感じている皆さんが多いと思います。日々、健康に気をつけて生活しても思うようにならないこともあります。健康に気をつけていればよかった、という話も良く聞きます。北杜市は山紫水明、自然豊かな地あります。先日、甲陽病院の院長先生との話の中で、山梨県が健康長寿日本一であることは、謎であります。山梨県は、塩分摂取量が日本一、また、歩くことも少ない県であるのに、何が健康長寿の関係しているのだろうか。その中でも北杜市は、山梨県内でも健康長寿で、風紀と自然の中の美味しい恵まれた食べ物、特に人との交流、隣近所の人々が互いに声をかけあい、思いやり、安心して暮らせる場所にあることも関係しているのではないだろうか。甲陽病院の院長先生は、ぜひ北杜市で健康長寿日本一を実証したいとのこと。委員の皆さんにも、北杜市で健康になる、生きるためには健康が宝だ、という健康のすばらしさを検証し、職員や財政の健全化にも目を向けていただき、健康の意義を出していただきたいと思います。

13. 自己紹介

委員・職員自己紹介

14. 会長・副会長の選出について

《事務局》会長・副会長の選出について、設置要綱第6条により委員の互選によることとされています。委員の皆様ご意見ございますか。

事務局一任の声

《事務局》事務局案として会長 吉田和徳委員 副会長 食改善推進委員 浅川敬子委員でお願いしたいと思います。

《委員》拍手で承認

・会長あいさつ

北杜市が北巨摩郡の頃から関わっており、人の一生に関わるすべての問題について、最初は何をするのかわからなかったです。資料の2では、健康づくりに対する普及とあります。自分たちの身の回りの人たちを含め、すべてを通して健康づくりについて知っ

ていくことが大切であります。1年目の時の委員の方で私たちの役目は何かわからないと質問をして帰った人がいましたので、そういったことがないように意見を出し合っていきましょう。

15. 議事

(1) 健康づくり推進協議会の役割について

《事務局》資料1。口頭にて説明。

《議長》質問はありますか。

・異議なしの声。

《議長》質問がないようですので、次に移ります。

(2) 第2次北杜市健康増進計画及び北杜市民の様子について

① 《事務局》第2次北杜市健康増進計画 冊子

重点説明を第1章概要 P1～4（冊子）、第2次北杜市健康増進計画 中間評価 <北杜市民の様子> 資料No.4-1 4-2、比較追加説明→北杜市のすがた P5～9にて説明。

《議長》資料4-1、4-2をみると、少子化・高齢化・一人暮らし高齢者が多いということもあり、あまり喜ばしいことではないです。少子化が自分の町でも進んでいると考えると驚きました。

《委員》資料3. 子どもの発達状況によって支援していくことを始めて知りました。もっと多くの方に知らせたほうが良いと思いました。

また、高齢化の中で、須玉町は高齢者人口の割合に対して介護保険認定率が高く、一人暮らし高齢者が多いです。しかし、白州町は、高齢化率が高いのに介護認定率が低いです。市の中でも違いがでてきていますが、他の地区で変わった取り組みをしているのであれば、教えてほしいと思います。

《事務局》子どもの発達については、ほくとっこ元気課で詳しく説明していきます。高齢者については、介護支援包括支援センターで実施しています。地区によっては、後期高齢者が多い地区と前期高齢者が多い地区があり、須玉町は後期高齢者が多いことが考えられます。

《事務局》須玉町は、後期高齢者が多い分、認定率が高くなってしまいます。白州町は実施している公民カフェや集いの場が一つもないですが、認定率は低くなっています。白州町は、人口に対しての高齢化率は高いですが、前期高齢者が多いために認定率が低くなっていることが考えられます。しかし、今後は後期高齢者が増えることが予想され、何らかの方策が必要だと考えられます。

《議長》介護認定は、申請しなければなりません。今後、高齢化が進むに連れ、申請する人が増えてくることが予想されます。

(3) <平成29年度北杜市保健事業計画>資料No.2-1、No.4-2<北杜市母子保健事業・子育て支援施策> 資料No.3を説明。

《議長》まず、「北杜市子育て世代包括支援センター」は、高根町にあります「北杜市保健センター」内にあります。こちらの所管課が「福祉部 ほくとっこ元気課」です。職員体制ですが、保健師6名、栄養士2名(内1名は臨時)、助産師1名(常勤嘱託)、利用者支援専門員2名(常勤嘱託)、臨床心理士1名(非常勤嘱託)、家庭児童相談員1名(常勤嘱託)事務職4名(課長含む3名、1名臨時)と、旧秋田保育園内で業務を行っているファミリーサポートセンター職員が1名(嘱託)と18名体制で業務に当たっています。また、地域子育て拠点施設の「つどいの広場」が市内に4回所あり、その内の1つを保健センター内で開設しています。業務内容につきましては、昨年度まで健康増進課で担当していた、「母子保健部分」の事業に加えまして、子育て支援課(現在は子育て応援課)から移行となりました、「つどいの広場事業」や「出産祝い金」、「チャイルドシートの助成」や「DVや虐待にまつわる家庭児童相談業務」などの子育て支援事業の一部がほくとっこ元気課の業務となっており、保育園や小中学校、児童相談所など関係機関等と連携を取りながら業務を行っています。開所して3ヶ月ですが、利用者の方々からは「専門職が常駐しているのでいろいろな相談ができる」「安心してじっくり話を聞いてもらえる、」などの声をいただいています。今後も、市民の皆さんに信頼され多くの方々に気軽に御利用いただけるように業務を充実させて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

《事務局》 資料7・資料5を用いて説明

先ほどの櫻井委員からの質問について、発達について問題のある子どもは、すすすす相談やほっとる一むに健診の後につなげるように実施しています。

《事務局》 実年期(40~64歳)2ページ、高齢期(65歳~)3ページ

《議長》健康の問題を自分が病気になる前から健康維持に努めても病気になることはあります。小さい頃から健康に対しての教育を受けていれば、そういうことは少なくなるのではないのでしょうか。健康診断を受けない方もいれば、健康診査を受けてから1年後に精検依頼状を持ってやってくる若い方もいる。会社も受診状況まで把握していないことが多いです。歳をとらないとわからないのではないこともあります。

北杜市で出生200人、死亡600人、自然減少で400人であり、自分たちの身の回りでも子どもを見かけなくなりました。小中学校の統廃合の話も出ていますが、子どもがいなければ、若い方が住むはずがないです。子育て支援住宅ができ、子どもが増えればいいなと思います。

《委員》先ほどの説明で食事を取る、野菜を食べることの割合は少しずつ増えてきました。青年期はその野菜を食べる割合が減ってきています。子どもの場合、親が食べ

なければ子どもが食べるはずがないです。どう解決していけばよいのでしょうか。

《事務局》青年期のデータとしては、かなりの数値が下がっています。青年期の数値は、子どもの12ヶ月検診で親にアンケートをとっています。今年の集計は、野菜を食べる習慣についての項目が一番下にあり、回答の母数が少なかったです。母数が少なかったからといってそれで言い訳ではないです。若いお母さんの傾向としては、朝食もパンとコーヒーやシリアルという方も増えてきており、野菜を毎食摂取することは難しいのが現状です。親の食習慣が子どもにも繋がるため、ほくとっこ元気課とも連携しながら改善していくことができるよう検討していきます。

《議長》親が朝食を食べないために、子どもは食べないのが当たり前になります。朝食の欠食のために頭が働かず、授業に身が入らないです。甲府市では小学校で朝食を出しているようで、甲府市から転入してきた方は、驚いているという話を聞いたことがあります。委員たちの年代の孫たちがその世代であり、働きかけるターゲットは親の世代であります。

《委員》現在は、フードバンクが設置されるなど、満足に食事を取ることができない子どもたちがいる現実があります。先日聞いた話では、一つのラーメンを母親の分を残して子どもが分け合って食べている家庭があるそうです。その子どもたちが、大人になったときにどんな親になるのか、不安です。

《事務局》子どもの健診でお母さんを対象に、食事について質問をし、食事の内容について具体的に聞いています。きちんと食事を取ることが元気な赤ちゃんを産むことにも繋がることを説明しています。ほくとっこ元気課でも、小中学校の養護教諭や保育園とも連携し、子どもの食事について検討していきたいと思います。

《事務局》学校の先生もいらっしゃるので、学校での様子についても伺ってみたいと思います。

《委員》学校での食事指導は個人差もあり難しいです。本校では朝食欠食児童は少ないですが、食べてくるものはクッキーなこともあります。学年PTAでは、子どもたちの元気の源として「早寝早起き朝ごはん」を呼びかけています。学校保健委員会でも議題として取り上げているので、行政とも連携して検討していきたいところです。

《委員》生活習慣の話題は年に一度はPTAや学校保健委員会でも話題にするようにしています。しかし、朝食摂取率は絶対に100パーセントにはなりません。親の仕事等の家庭環境も関係しています。親が起きないと子どもも起きてこず、そのまま学校を休んでしまうこともあります。親が朝食を作ってくれないのであれば、パンを買ってきてもらったり、自分でご飯をよそったりできるようにして、とにかくご飯を食べてくるように伝えています。

白州小学校では、全員がランチルームで給食を食べているが、野菜を食べられず、時間がかかってしまう子どもがいます。自宅では食べないのになぜ食べなければいけないのか、と思う子どももいます。友達が食べているのを見ると食べられるというこ

ともあるため、刺激にもなりますが、親の考え方も必要なため、難しいのが現状です。アレルギーが増えてきたこと、食感に敏感になってきている傾向があるのも事実です。《委員》昨年度、毎年実施している味噌汁の塩分濃度調査を若い方の家庭で実施し、パンフレットも配布しました。朝食は何を食べるのかを伺うと、前日の残りや大人はパンとコーヒーという家庭が多いです。一皿でも野菜や果物を多く摂取することを説明しても、子どもは食べないからもったいない、という返答がありました。子どもだけではなく、大人の食生活について根本的に関わっていくことが大切だと感じたところ

です。《議長》子どもや男性が野菜を買って料理はしないです。奥さんの好みによって、子どももその後の好き嫌いが出てきてしまいます。現在は、アレルギーもあり考え方も多様化しているのが現状です。食事について、指導しても守れるわけではないため、検討が必要です。

16. その他

《事務局》前回の推進協議会にて、リズムで元気をつなぐ園児の体力測定について質問があったため、実施要領を配布しました。スポーツ委員会がどのようなことを実施し、今後の方向性について聞きたいとのことでありましたので、参考にして下さい。

この取り組みは、生涯学習課社会体育担当で実施しています。昨年は白州保育園で実施しました。今年度は、白州保育園ではなく、市内の他の保育園で実施していく方向だそうです。目的はスポーツに親しんでもらい、北杜市全体にこの活動を広げていくことです。

《議長》このことについて質問はありますか。

《委員》先ほどの件ですが、食事をきちんととることができない子どもがいる現状を知りました。学校だけでは改善は難しいため、改善していくことができるように行政や民生委員とも連携して実施していきたいと思います。何とか改善し前へ進めるようにしていきたいと思いました。

《議長》今は、都会のように多様なライフスタイルがあります。根底には貧困もありますが、それだけではないと思います。個人情報は大切にといわれていて、連携をして踏み込むことも難しいのが現実です。市がどこの部分で関わるのでしょうか。

《事務局》朝食の欠食状況は、内容を見ても様々であります。その中で、貧困世代の繰り返しが起きています。山梨県でも貧困について考えており、貧困対策推進協議会を立ち上げており、市でも小中学校に調査しています。この調査は全数対象ではなく、貧困という定義も難しいです。食事に関しても、場面によって様々な弊害が出てきています。子どもの貧困という事情があることを把握し、関係部署として連携し、検討していきます。

— 《議事終了》 —

17. 閉会あいさつ

《副会長》本日は健康に関する事で意見があり、市民の皆様に少しでもつなげていくことができるよう、本日のことを振り返りながらできることを考えていきたいと思ひます。食ということは健康に繋がることなので、食生活改善推進委員の中でも伝えていきたいと思ひます。

— 午後4時10分閉会 —

署名録委員 氏名

氏名